

福島県PTA連合会会報
第53号_H12. 12. 08

P T A ふ く し ま

第 53 号

福島県 P T A 連合会

編 集 / 調査広報委員会

印 刷 / 泉 印 刷 所

五色沼での

移動教室

スバルタイムにて

(総合的な学習の時間)



水質検査をする子どもたち



「相馬地方の自然と会津の自然」で観察池を遠望する子どもたち

表情豊かに、生き生きと学習している子どもたち。
それは何に起因しているのでしょうか。
私たち大人もこのように在りたいと願う者です。

[写真提供 原町市立原町第一小学校]

去る十月六・七日、当地白河において第四十九回福島県PTA研究大会が盛会のうちに無事終了できましたこと、心より御礼申し上げます。これもひとえに、来賓の皆様にも多数ご臨席を頂きましたこと、県内各地より二千余名の会員のご参加協力のおかげと西白河PTA連合会全員感謝の気持ちでいっぱいしております。

今大会では「夢あふれる未来社会とするために、スクラム組んで二十一世紀の扉を開こう!」のスローガンのもと二十世紀の反省と夢あふれる未来を築くための提言がなされました。子どもたちの心が豊かにはぐくまれ「生きる力」の形成に役立ち、我々もそれを意識し、実行できる大会になるよう運営を行ってまいりました。おかげさまで、参加会員皆様のご協力で、分科会、全体会共に、成果をあげることができたのではないかと思います。また、今まで先輩諸氏が作り上げてくださったものを二十一世紀につなげる橋渡



大会実行委員長 鈴木 雅文

白河大会を

ふりかえって

しのお手伝いできたのではないかなと、ほっと一息といったところです。

しかし、反省をいたしました。ハード面においてたくさんの方の準備があつたことに対しお詫び申し上げます。会場が体育館であつたために音響面でお聞き苦しい点が多々あつたり、宿泊施設が遠かつたり、それに携わる我々の準備と経験不足のためご不便をおかけいたしました。が、会員同士の友情に免じお許しいただき、我々の後輩に託していきたいと考えております。

今大会は、我々に有形無形の財産を与えてくれました。「生きる力」を我々西白河連合会の会員に、経験という形に変え与えて頂いたと思っております。それらを今後の人生の糧に生かしていけたらと考えています。

最後にご協力を頂いた関係機関の皆様へ御礼を申し上げ、新世紀の開催となる会津大会のご成功を心よりお祈りし、御礼に替えさせていただきます。

県P連活動スローガン

語り合い 分かり合い 確かな信頼関係を

県連P研究大会に参加して

石川郡連P会長

水野 一彦

大会主題「夢あふれる未来社会とするために、スクラム組んで二十一世紀の扉を開こう」の通り、心通う研究大会となりました。白河大会実行委員長さんをはじめ、多くの大会運営関係者の方々に、細部にわたりご配慮頂き、厚く御礼申し上げます。

初日の分科会では、他地区PTAの実践活動の発表に度肝を抜かれたというところもあり、新鮮な気持ちで拝聴いたしました。今後私どものPTAでも参考にさせて頂きながら、一つ一つ積み上げていきたいと思っています。

二日目の全体会は、厳粛な中にも簡明な運営で、すばらしい式典だったと思います。アトラクションの「白河提灯まつり」は、白河の伝統を受け継ぎ、披露頂いた皆様の真剣な表情と汗が、目に焼き付いております。次に、中畑清氏の記念講演は、自信と夢を達成した人として、強く印象に残り、まさに「天才は努力なり」の思いが伝わってきて、非常に有意義な講演でした。

今後の研究大会に向けて、課題を挙げさせて頂ければ、分科会の

形式を見直し、テーマを絞り、パネルディスカッション等を取り入れてみてはいかがでしょうか。我々役員の悩みは、会員の意識をどう変えていくか等で、そのような話し合いを望んでいるのではないのでしょうか。私自身も、一會員の時は、研究大会さえも知らなかったという状況でした。

学力向上、健全育成等、子ども達をとりまく環境を良くするためにも、我々大人が変わらなければならぬのだと思います。子ども達は、私達のつくり上げた社会で生き、成長し、二十一世紀を担うのですから、「教育改革・意識改革」の思いを強くして、今後も活動していきたいものです。



下郷町立江川小PTA会長

遠藤 茂光

県内各地より、PTA関係者が集った白河大会は、会の運営もすばらしく実り多いものがあつた。

分科会は、青少年の健全育成に参加したが、発表したPTAの活

動がすばらしく、見習う点が多かつた。

私達のPTAも育成会を結成して、ソフトボール・バレーボール・陸上・卓球・剣道と、スポーツを通して健全育成に努めている。多くの地域が抱えている悩みだと思ふが、私達の育成会でも少子化、指導者不足が最近の課題となっている。幸い、各會員が協力的で、交流会等にも積極的に参加をいただいている。

育成会の運営資金として、空きビン回収を行っている。この活動は、児童を含めて、学校・家庭・地域の連携を深める活動として定着している。

分科会でも多くの意見があつたように、今後ますます地域ぐるみで取り組まなければならない課題であると痛感した。

中畑清氏の講演も素晴らしく、プロでも基礎・基本が大切なことや、人間関係の大切さを、キャッチボールに例えて分かりやすくご講演いただいた。残念なことは、マイクの音声聞き取りにくいことであつた。

私達の父母と教師の会が、今年度福島県教育委員会より社会教育優良団体として表彰を受けたことをよい機会として、県P大会などの研修会に、もっと多くの會員を参加させるようにするなど、更なる発展を誓っているこの頃である。



内郷第二中PTA会長

橋本 保忠

県PTA研究大会に参加して最初に感じたことは、実行委員の方々をはじめとして、参加された方々のすばらしい「熱意」でした。私は、第五分科会に参加したので

すが、各校とも家庭・学校・地域の中でPTAが積極的に参加し、場合によってはリーダーシップをとっているのが感じられました。

その後の協議においても積極的な発言が交わされ、まさにミレニアム大会にふさわしいといえる充実した内容であつたと感じました。

講演においても……中畑先生のお話の中の『会話のキャッチボール』を心がけていきたいと思ひます。私事ですが、今思うと息子に對し、自分の考えをどうしても通さなくてはいけないと思ひこんで

いることが多く(自分は、「親」ですからそれが悪いこととは思ってはいませんが……)、息子のその場その場の行動がどんな考えを持って表れてきたのかをあまり考えなかったことがあります。これからは、自分から息子の捕りやすい球を投げ、そして、まず子どもが投げた球を(どんな球でも)受け止めてやりたいと思います。

子ども達が健全に成長すること……それは、日頃から声をかけ、人と人との関係をつくっていくことであるとあらためて感じました。



山梨レポート

福島県P連理事

八巻 修

私は今回初めて全国大会に参加させて頂きました。私が参加した分科会は、『地域連携』研究課題「体験を通して心と体を育てる地域社会とPTA活動」でした。その中で学んだことは、PTAのあり方について、PTAは学校の後援会や御用団体ではなく、社会教育法の中で位置づけられた『自主学习活動を主目的にした社会教育団体』であること、PTA活動は子どもを良く育てるための重要な役割を担っていることがよく分かりました。

二日目の全体会はアメッセ山梨を会場に約七千五百人の人が集まり開催されました。参加者の多さにも驚きましたが、会場の広さにも驚きました。また来賓の大島文部大臣を間近で見ることができ、祝辞にも感銘を受けました。

二泊三日の研修でたくさんの方とを学び、自分自身の視野も広がったように思います。また、今大会の様子がエルネットで全国に放送され、自分が見れなかった特別分科会の様子を見ることができたことは、すばらしいことだと思いました。

今回の研修で学んだことを地区PTAや地域に積極的に呼びかけ、一人でも多くの方がPTA活動に参加できるようにしていきたいと思っています。



仙台レポート

福島県P連副会長

林 一

今年度第32回東北ブロック研究大会は、九月八・九日仙台市で開催されました。七分科会会場とも駅から徒歩数分の場所でした。

当県PTA連合会から第一分科会司会者として齋藤泰一副会長、第三分科会提言者・パネラーとして阿部保憲、小野洋美の両理事、第七分科会運営責任者として早川敬介会長にご活躍いただきました。

私は第七「特別課題」へ出席。子ども達の「生きる力」の育成と課題について、四名の提言者・パネラーそれぞれの視点での問題提起に対し、熱気あふれるやり取りが会場を飛び交い圧迫されました。

二日目全体会では開会行事に続き「子を鏡として」と題して記念講演がありました。講師の愛知専門尼僧堂特別堂長青山俊重尼は、昭和八年生まれ、五歳で入門、十

五歳で得度し現在も修行中の方です。

「わが子のお陰で様々な経験や喜びを与えていただけに感謝しななければならぬ。親の姿は子を鏡として子どもの姿に表れる。子どもは親の言う通りには育たない、親のやることを見て育つ。」「育児は育自」「自分の中の鬼が相手の中の鬼を引き出す」に現代の青少年と今の時代、大人社会のありかたを考えさせられました。



仙台大会は内容はもちろん、会場施設や運営面でも素晴らしいものでした。最後に、今大会で感謝状・表彰状を受賞された皆様にお祝いを申し上げ、参加報告いたします。

母親代表者懇談会

郡山市立大槻中PTA

伊藤 文子

母親代表者懇談会中学校部会に出席し、前半の部では、司会を努めさせていただきました。皆さんが、発言しやすいようにと心がけ話し合いを進めました。

提言があったのは、共働きの家庭が増加し、PTA活動が、限ら

れた一部の顔ぶれによって進められているのが現状であること、つまり、お母さん方が一人で何役もこなし、負担が増大しているということでした。

PTA活動は、多くの方の支えや協力なしには成り立ちません。したがって、人と人との関係を大事にし、感謝の心、助けあいの心を持つことが必要だと思います。

長時間にわたり話し合いがされましたが、ここで明確な答えや結論が、すぐ出せるものでもありません。今日この会に出席した皆さんが、PTA活動のあるべき姿を見い出すことができ、将来の進むべき方向性を指し示すことになればと思います。

学んだことのたった一つの証は自分が変わること、大人が変われば子どもも変わる。共に学びましょう。実践しましょう。子どものために生かしましょう。

北会津中PTA

鈴木 恵美子

初めて県PTA連合会郡市母親代表者懇談会に参加し、県内各地区で頑張っている多くの母親役員の姿に、とても良い刺激を受けました。

各地区ごとに、学校の特色を打ち出して実施されているPTA活動ですが、それぞれの課題解決や会員の意識向上のために取り組ん

でいることが分かりました。

さらに、今回、数々の情報交換ができ、多くのことを学び合うことができました。特に、再確認した内容は、

一、家庭や職場に負担をかけずに地域・学校（児童生徒、先生）会員の人達と楽しんで行える活動であること

二、研修会や講演会については、マンネリ化せず、少しでも多くの意見が出され、問題提起し、行動化できるよう、会の持ち方を工夫することでした。

これからのPTA活動は、活動（行事等）の改善に取り組み、学校運営に主体的に参加し、学校を支援するものであること。このことはこれらが子育てにつながるものである、ということを知ることができました。

第八回小・中学校別懇談会

懇談テーマ・視点

《小学校》

- ◎新しいPTA活動の創造を進めよう。
- ・会員の研修をどう見直し進めたらよいのか。
- ・新しいPTA活動を創造する重要なポイントとして押さえることは何か。

《中学校》

- 1 高校入学者選抜資料の取り扱いについて
- ・調査書「特別活動等の記録」の採点についての考え意向
- 2 新しいPTA活動の創造を進めよう。（小学校に同じ）

晴れの表彰 おめでとう ございます

◆優良PTA文部大臣表彰

- 館岩村立上郷小学校PTA
- 福島市立笹谷小学校父母と教師の会

◆日本PTA全国協議会会長表彰

〈団体表彰〉

- 福島市立平野中学校PTA
- 会津若松市立一箕中学校父母と教師の会

〈個人表彰〉

- 箕輪 達也 (県PTA連前副会長)
- 國田 法應 (同 前副会長)
- 武田 一奉 (同 元副会長)
- 早川 栄二 (同 前理事・日PTA評議員)
- 佐久間 一枝 (同 前理事・母親代表)
- 飯塚 康雄 (同 監 事)

◆東北PTA連絡協議会会長表彰

〈団体表彰〉

- 梁川町立富野小学校PTA
- 常葉町立山根小学校父母と先生の会
- 館岩村立上郷小学校PTA
- 原町市立原町第三小学校父母と教師の会

地域に支えられたPTA活動

梁川町立山舟生小学校PTA

山舟生小学校

は、福島県伊達郡梁川町の最北東部の山間部に位置しています。自然に恵まれ和紙と山菜の郷として地域の活性化に取り組んでいます。本校は、年々児童数が減少しており、現在全校児童六十七名、実家庭四十七です。

学校教育活動への協力と児童の健全育成のために活動実践に努めています。

います。

児童数の減少とともに正会員数が少なくなり、各専門委員の活動やPTA組織としての行事運営が難しくなってきたのが現状です。しかし、PTAを中心とした地区のまとまりはすばらしく、地区をあげての運動会や学校周辺の環境整備など大きな成果をあげています。また、地区内の諸団体と協力し、方部ごとの懇談会を開催したり地区に残る伝統芸能の継承にも力を入れています。

PTA行事としては、「親子のふれあい活動」を実施しています。親と子が、共に運動をしたり作業をしたりすることにより、親子や会員相互の親睦を深めることをねらいとしています。今年度は、六月に親子で水鉄砲作りをしました。中には初めて作る会員もあり、できあがるまで子どもと共に四苦八苦していました。幸い天候にも恵まれ、親子で水をとばす声が校庭いっぱいに広がりました。

今後も、学校週五日制を間近に控え、PTA活動のより一層の充実を図りたいと考えています。



訪問

郡P大会会場校としての取り組み

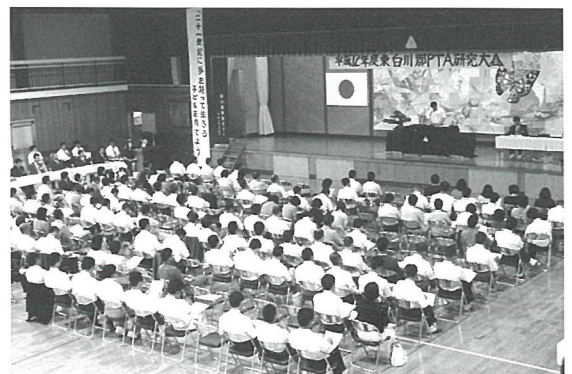
鮫川村立鮫川中学校PTA

県の最南端東白川郡は、四つの町村から構成されており、ローテーションで郡のPTA研究大会を開催しています。

今年度は、鮫川村が四年ぶりの開催年にあたり、鮫川村連合PTA並びに鮫川中学校PTAが総力を挙げて取り組みました。

支部役員、各専門委員の方々の協力を体制を整えました。

具体的には、毎年二回実施していた環境美化奉仕作業を、今年は三回に分けて実施し、参加者の方々が素晴らしい学校環境のもとで開催できるようにしました。さらに、PTA一人ひとりの意識を高めるために、家庭教育学級では、ホ



テル業を営む方を講師として、経営の立場から「誰のためでもなく」という演題で講演いただき、家庭・地域・学校の連携がいかに大切かを学びました。

方部懇談会においても、郡PTA研究大会開催へ向けての協力依頼をしたり、PTA会報を村内全戸に配布し、郡PTA研究内容についてお知らせしたりして、鮫川村全体挙げて歓迎できるようにしました。

こうして迎えた郡PTA研究大会は、約二百名の方々の参加を得て、四分科会ハグループ編成で活発な意見交換が行われ、大会の目的が十分達成できました。これらの収穫を今後の本校PTA活動に生かしていくことを確認しました。

〈個人表彰〉

宮口 昭一	(県P連前理事)
野村 重忠	(同)
車田 悦夫	(同)
佐川正一郎	(同)
田中 茂	(同)
猪俣 孝之	(同)
長嶺 裕行	(同)
藁谷 淳市	(同)

◆福島県PTA連合会会長表彰

- (一) 個人感謝状 三十一名
(二) 団体表彰 三十七団体
(三) 個人表彰 百二名

※県表彰については、「第四十八回福島県PTA連合会研究大会白河大会」要項に載せてあります。

「だのしい子育て」

全国キャンペン

三行詩部門 入選作品から

《一般の部》

◎文部大臣賞

ふるさと宅急便

おとうさんありがとう。

玉ねぎ一つまた一つ

包んであった新聞を

のばしてのばして読んでいます。

(岡山県 小野寺よし子)

◎日本PTA会賞

君がいくら反抗期であろうと
私はいちばんかわいかった頃の
時を知っている
くやしいでしょう

(兵庫県 木下 つかさ)

文化祭を通じて

大熊町立大熊中学校PTA

また、親父の会は、「藁の文化」と題して、縄もじりや、藁草履作りの実演体験コーナーを

学年委員の方々には、学生服や運動着のリサイクル活動について、説明コーナーを開いて頂き、多くの保護者から反響があり、今後の収集活動にも大きな期待がもたれます。

今回、数年ぶりに文化祭を開催し、地域の方々にもたくさん参加頂きました。教養・広報委員の方々はバザーの開催にご協力頂き、十日前からバザー用品の収集を始め、前日には値段ごとに区分、分別作業をしました。当日には、生徒達の昼食休憩時間を利用し、十二時半からバザーを開催しました。大きな呼び込みの声に大いに盛り上がりしました。

開きました。懐かしがる保護者共々、生徒達の真剣な取り組みが印象的でした。体験コーナーには、シルバー人材センターからも応援を得て、親切にご指導頂きました。

今後、町PTA

A連合協議会主催による小・中・高等学校による合同演奏会も予定されており、学校・保護者・地域が、お互いに分担協力し合うことがますます大切となってきました。

と題しての、二十一世紀への懸け橋となる今回の文化祭の成功は、生徒達には大きな自信となり、保護者や地域の人々には、生徒達とのより積極的な、そして健康的な関わり合いの実現に期待しています。



単P

地域ぐるみの子育てを目指して

三島町立三島小学校PTA

組織としては、教養・環境・厚生・地区の四つの専門委員会と、各学年委員会を設け、それぞれが活動しています。

今後こうした方針のもと、PTA活動を充実させていきたいと思っています。

一、他人の子どもにも深い愛情と厳しさを持とう。

子育てには、地域の協力が不可欠です。そこで、各種行事への地区民の方の参加を呼びかけたり、学習発表会に地区の伝統行事を取り入れたりして、子どもと地域を結びつける機会を設けています。

一、悪いと教えよう。
一、明るいあいさつが聞こえる町をつくろう。

の日曜参観、祖父母学級において、物づくりコーナーとチャレンジコーナーを設け、三世代の交流を図る遊びやゲームをしています。また、環境委員会では、夏休みに親子レクリエーションを催し、親子で各種のスポーツを楽しんだり、バーベキューをしたりして、会員相互の交流を図っています。

本校は、六年前に統合し、会員数八十二名の小規模校です。本校では、統合当時より、次のPTA宣言を定め、会員としての在り方を確認しています。



年末年始の交通安全防止を

「事故ゼロの 笑顔でむかえる 新世紀」

のスローガンのもと、「年末年始の交通事故防止県民総ぐるみ運動」が下記により実施されます。

◆期 間

平成12年12月10日(日)～

平成13年1月7日(日)の29日間

◆運動の重点

- (1) 夜間の交通事故防止
- (2) 高齢者の交通事故防止
- (3) シートベルトとチャイルドシートの着用の徹底

今年は、交通事故による死者数・傷患者数・事故件数など、昨年同期より大幅に増加しているそうです。なお、学童6名の死亡事故のうち、5名は交通事故によるものです。

皆様の事故ゼロに向けての取り組みを、家庭で、学校で、地域で、…お願いします。

有珠山噴火災害義援金 募金活動実施PTA

会報PTAふくしま第五十二号
でお知らせしましたが、その後報
告のあった単位PTA名をお知らせ
します。

◇日本PTA全国協議会へ送金

・郡山一中・田島二小・内郷二中
・小名浜一小・笹谷小・郡山四中
・南戸沢小・駒形小・沢渡小
・永井小中・群岡小・植田小
・西郷二中・城西小・若宮小
・木幡一小・小田倉小・岡山小
・小川中・安積中・東芳小

◇日P以外に送金

・泉崎一小・岳陽中
計 以上 二単P
計 十二単P
※ほかに、郡山市内の四つの幼稚園からも日Pに送金いただいております。(計九園)

合計 百四十単P九園
ありがとうございます。

有珠山噴火義援金 贈呈のお礼が届きました。

北海道PTA連合会・胆振西部PTA連合会長より、県PTA会長宛丁寧な礼状が届きました。
会報前号と本号でお知らせしました各単位PTAに改めて御礼を申し上げます。

お知らせ

伊豆諸島災害義援金を県内各単Pのご協力をいただいております、厚く感謝申し上げます。

その後、東海地区での水害、山陰地方での地震の発生により、多くの児童・生徒が被害を受けました。そこで、日本PTAは、あらたに募金活動をお願いするのではなく、今活動している募金の一部を、被災地に義援金として支援することとしました。このことをご了承ください。

なお、義援金の締切は、十二年十二月二十日まで延期となりました。よろしくお願いいたします。

―お詫び―

前号の表紙の写真コメント「小国山登山」は「雄国山登山」の誤りでした。

安全互助会から

平成12年4月から10月までの事故件数（受理したもの）

〈傷害〉 学童 1,825件（内死亡6件）、PTA 126件、計 1,951件

〈賠償〉 学童 97件、PTA 9件、計 106件

合計 2,057件

・主な賠償の例（損害物）

学童、PTAとも、1位は自動車への損害（学童-48、PTA-3）、2位はガラスの破損（学-38、P-3）、3位は相手にけがをさせた（学-5、P-1）であった。

福島県PTA連合会 (TEL 024-545-5982 FAX 024-545-5990)

《提携損保》 **共栄火災海上保険相互会社**

〒960-8035 福島市本町5-5 殖銀フコク生命ビル7階

TEL 024-523-3507 FAX 024-523-3509